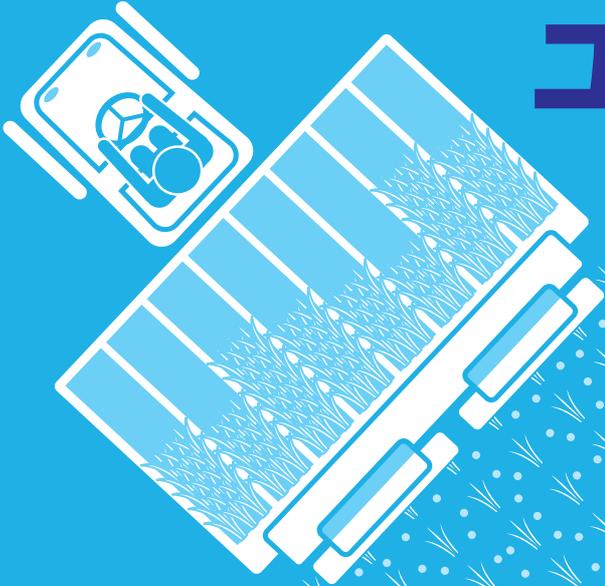


長期持続型水稲用除草剤

# ユートピア<sup>®</sup> 粒剤15



簡便処理で  
50~60日  
効果

田植同時で、除草終了!!

動力散布機でも  
散布できます。



同時散布

**田植同時!**

田植機に専用アタッチメントを取り付けて作業すれば、田植えと同時に除草剤散布が終了、あなたの作業を大幅に省力化します。

長い

50~60日

**50~60日効果!**

ユートピアでは幅広い草種に対して、50~60日という長い持続効果を発揮しますので、後処理剤や手取り除草が不要です。

2成分

**有効成分は2種類!**

ユートピアは難防除雑草を含む多くの広葉雑草に高い効果を発揮するシクロスルファムロンとノビエを抑えるペントキサゾンの2成分です。

## 同時処理で除草作業を省略!

田植機に3kg粒剤対応の散布機を取り付けて作業すれば、田植えと同時に除草剤散布も完了。

## 3kg入りで使いやすい!

3kg粒剤なので従来通りの動力散粒機で散布が可能です。

## 高い土壌吸着で安定効果!

有効成分が土に強くくっつき表層部に安定した処理層を形成。降雨により水の移動が生じて、効果の変動が少ない除草剤です。

## 環境にやさしい!

有効成分が水系に流れ出る可能性が少なく、環境保全に対しても高いレベルの安全性が確認されます。

## 除草工程を省くことで、積極的な耕作規模の拡大が図れます

■使用量: 3kg / 10a

●使用時期: 田植同時散布、あるいは

田植直後からノビエ1.5葉期までに散布

従来と同様に動力散粒機でも散布可能  
散布適期(ノビエ1.5葉期まで)



## ■適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	シクロスルファミロンを含む農薬の総使用回数	ベントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植 水稻	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ	移植時	3kg/10a	1回	田植同時 散布機で施用	2回以内	2回以内
	ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植直後～ ノビエ1.5葉期 ただし、移植後30日まで			湛水散布		

## △使用上の注意事項

- 雑草の発生前からノビエの1.5葉期まで有効なので、時期を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレが出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期です。
- オモダカの防除に当たっては、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用してください。
- 苗の植え付けが均一になるよう、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行ってください。フラクすなどの浮遊物はできるだけ取り除き、未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行ってください。
- 田植え同時期に施用する場合は、通常の移植作業と同様に落水下で田植えと施用を行い、施用後に入水してください。また、入水後の散布については、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布してください。処理後は通常の湛水状態(水深3～5cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 苗が水没するような深水状態では、葉鞘部に軽い褐変症状が出る恐れがあるので、水管理に注意してください。
- 以下のような条件下では、葉害を生じる恐れがあるので使用を避けてください。特にこれらの水田条件と散布時または散布数日以内の梅雨明けなどによる異常高温が重なると、初期生育の抑制が顕著になるので注意してください。

- ①砂質土壌の水田や漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)。
- ②軟弱徒長苗を移植した水田。
- ③極端な浅植えをした水田や浮き苗の多い水田および極端な深植えをした水田。
- れんこん、くわい、いぐさ、せりなどの生育を阻害する恐れがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。
- 使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管…直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥し子供の手の届かない場所に密封して保管してください。

このチラシの記載内容は2016年7月現在のものです。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記載しましょう。